

東京石桜同窓会が4年ぶりに総会・懇親会を開催

東京石桜同窓会（会長・前関邦明 新23回生）は10月7日、「第41回東京石桜同窓会のつどい」を東京都台東区の上野精養軒で開催しました。コロナ禍で3年間にわたって中止を余儀なくされ、実に4年ぶりの開催となりました。併せて創立40周年という記念すべき会合でもあります。また、今回は午前11時に開始と、開催時間帯を見直し、早目に終えて無理なく帰宅できるように配慮もしました。そうしたこともあり、来賓、恩師、本校関係者を含めた参加者は50人近くに達し、終始なごやかな雰囲気の中で、同期の仲間らとの再会を喜び合う光景があちこちで見られました。

第1部は盛岡市でも個展を開催したパリ在住の画家、宇津宮功さん（新15回生）の講演会。宇津宮さんは絵画に対する自身の世界観を披露するとともに、恩師である小笠原哲二先生の思い出なども独特のしっかりとした口調で語り、参加者の絵画への興味を掻き立てました。

講演に続いて第2部の令和5年度総会・懇親会に移り、総会では満場一致で報告事項の承認を得て終了。次いで懇親会に入りました。懇親会ではまず前関会長が挨拶に立ち、会合への出席ができなかった本会名誉会長で、岩手奨学会の三田義之理事長が寄せた同窓会活動への感謝の意を示した挨拶文を代読しました。その後の挨拶で前関会長は、同窓会の会合は形を変えてでも継続していきたい旨を明言しました。続いて来賓である石桜同窓会の村井紀之会長（新18回生）が登壇し、同窓会の本校への支援の詳細や、盛岡市で開いた同窓会創立90周年式典の様子などを説明し、今後の方針などにも触れていただきました。

今回、本校からはラグビー部の顧問も務める田中館光先生（新47回生）に出席いただき、最近の在校生の学業やクラブ活動での活躍ぶりなどを説明してもらいました。さらに、第7代校長の池口杜孝先生が恩師として元気な姿で駆けつけてくれ、ユーモアを交えて学び舎での思い出や最近の日常生活の様子などを披露し、会場を大いに沸かせました。

今回は東京石桜同窓会が創立40周年を迎えたことから記念企画として、本部の赤澤征夫常任理事（新9回生）が、戦前の旧制中学当時に組織された在京岩中同窓会から脈々と同窓会の灯が守られてきたことを明かし、知られざる事実に参加者を驚かせました。

この後、鎌田耕一郎さん（新8回生）の音頭で乾杯し、会場はお酒や料理を口にしながらの思い出話に花が咲きました。鎌田さんは岩手高校野球部が甲子園大会に初出場した昭和30年当時の生徒会長で、応援への対応など、思いがけない騒動に包まれた当時の学校内の様子を語ってくれました。

歓談の間には会員の動静も紹介されました。社会や地元への貢献が評価され、紺綬褒章を授与された佐藤忠男さん（新12回生）は年齢を感じさせない大きな声で、人生観を語りました。

会場のテーブルには今回も岩手県紫波町にある醸造会社「月の輪酒造店」の純米酒などが

並びましたが、その蔵元の代表取締役会長を務める横沢大造さん（新 13 回生）も東京に足を運んでくれ、盛岡弁も交えた恩師らの思い出話に会場は和やかな空気に包まれました。

映画録音の第一人者として知られる瀬川徹夫さん（14 回生）は今なおクリエイティブな挑戦を続けていると話し、参加者に今後の瀬川作品への大いなる期待感を抱かせました。

在京の同窓組織ということで多様な人材が次々と登壇しました。画家の宇津宮功さんと同じフランスで研究活動をしていた三田地成幸さん（新 23 回生）は、マイク片手にフランス語で宇津宮さんとやり取りし、会場に笑いの渦を巻き起こしました。また、今春の足立区議選で 3 選を果たした長澤興祐さん（新 52 回生）は政治への思いを明確にし、会場から大きな拍手を浴びました。さらに、花館和衛さん（新 14 回生）、笠原一臣さん（新 16 回生）、吉田昌之さん（新 30 回生）らも学校時代思い出や恩師への感謝の言葉を述べ、学びの場を通じた人との出会いの大切さを訴えました。

終盤には同窓会担当の中山泰志先生（新 39 回生）が壇上で現役学生の岩尾郁翔さん（新 73 回生）、窪田楽さん（新 75 回生）、五島悠登さん（新 75 回生）の 3 人を紹介。会場から盛んにエールが送られるなか、3 人も目を細めて今後の活躍を誓っていました。

会場はこの盛り上がりを受けて、全員が起立して元気がみなぎるラグビー応援歌を熱唱。最後に小原政憲さん（新 20 回生）の指揮で校歌を歌い、前会長である菅野幸さん（新 13 回生）の音頭で万歳三唱をし、約 4 時間に及んだつどいの幕を閉じました。